

〔曲 名〕 Poupee qui Danse

踊る人形

〔曲 種〕

〔作曲者〕 Raffaele Calace Op.90

ラファエーレ カラーチェ

〔編 曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

私は非常に面白い曲だと思っているが不思議に何処でも演奏されたことがない。

作品九十番でモンテネグロのミケーレ皇子に贈られている。

モンテネグロ王とイタリア皇室とは密接な関係にあり、モンテネグロ王ニコラ・一世はその妃ミレーナとの間に六人の娘があり、ロシアのシチカルク大公、セルビアのペタル一世、イタリアのエマヌエル三世、パッテンペルク公に夫々（それぞれ）嫁している。

従ってモンテネグロの王妃ミレーナの娘エレナは、1900年から1946年まで在住したイタリア皇帝エマヌエル三世の妃でイタリア皇后なのである。

ニコラー一世は第一次欧州大戦にセルビアに味方しロフチェンの会戦（1916年）に敗れて退位亡命した。

主としてフランスを転々として再び故国に帰らず、妃ミレーナも之に従い、フランスのニースとカンヌの間にあるアンティポで1923年亡くなった。

話は飛ぶが本邦でよく演奏されるマチョッキのミレーナは1924年の出版で題名は之によるものと推定される。

モンテネグロ王はペトロヴィッチ家と称し、カラーチェが献げた本曲はイタリア国と国戚関係にあるモンテネグロの皇子に敬意を表して作曲されたもののようなのである。

マンドリン関係ではベルレンギに「サヴォイア・ペトロヴィッチ」と称する曲があり両国の親善を讃えている。

この踊る人形は極度にスタッカートを用い、恰もピノッキオの踊るが如き印象を与える。

1971年2月7日発行

イタリアマンドリン百曲選第10集より